

物分類学で有名な Adolph Engler などの学者の通訳をし、日本各地を案内した。また岩崎灌園の『本草図譜』の大正校正版の出版に際して、白井光太郎に協力し、学名の考定を行った。

Urbain Faurie (1847-1915)はフランスの神父で 1873 年日本に来て、キリスト教宣教のかたわら植物採集をした。採品はフランスやドイツの学者に送った。高等植物の多くはフランス国自然史博物館の Franchet が調べ、コケ植物については、苔類は主としてドイツの Stephani が、蘚類はフィンランドの Brotherus がそれぞれ研究している。飯豊山では矢田部・松村一行が見のがしたミヤマウスユキソウを採集している。これは Faurie が 1888 年に鳥海山で採集したものが基準標本として記載されている。また飯豊山採品から *Acolea fauriana* Steph., 磐梯山採品から *Thuidium bandaiense* Broth. et Par., 岳の採品からナガスジゴケ *Schwetschken longinervis* Card. とヒラヒツジゴケ *Brachythecium rhynchostegielloides* Card. が記載された。

フランス国立自然史博物館の Franchet は 1874 年に会津の名を付した *Acer tataricum* Linn. var. *aidzuense* Franchet (カラコギカエデ) を発表した。これは後に中井猛之進 (1926 年) によって独立種、*Acer aidzuense* (Franch.) Nakai とされた。

本県において初期に植物学を教授した人として根本莞爾 (1860-1936) がいる。根本は 1883 年に東京師範学校を卒業し、中学校教員の資格を得て、長野県師範学校に奉職、1887 年福島中学校教諭兼福島師範学校教諭となり、翌年福島師範学校専任となって植物学を教授した。特に植物に関心を持ち、牧野富太郎に同定を乞うた。ネモトシクナゲ *Rhododendron brachycarpum* D. Don var. *nemotoanum* Makino (後に forma *nemotoanum* Makino となる)、オオバウメモドキ *Ilex nemotoi* Makino (ミヤマウメモドキに統合された。) に献名された。根本に教えを受けた者のなかには植物に興味を覚えた者が多数いる。中でも服部保義 (福島師範明治 24 年卒)、田代善太郎 (明治 25 年卒)、星大吉 (明治 27 年卒)、小檜山 (旧姓勝田) 農夫雄 (明治 29 年卒)、古川万次郎 (明治 29 年卒)、中原 (旧姓佐藤) 源治 (明治 34 年簡易科卒)、斎藤 (旧姓 星) 知賢 (明治 41 年卒) が植物採集家として名をあらわしている。1905 年福島師範学校を辞して東京に移住し、東京高等師範学校副手となり、ついで東京帝室博物館嘱託となった。多年集めた標本は博物館に寄付した。これは現在の国立科学博物館に引継がれている。1925 年には『日本植物総覧』を牧野富太郎と共著で出版し、1936 年には『訂正増補日本植物総覧』を、さらに 1936 年にその補遺を著して、それまでの学者の研究発表を総括し、研究者の便に供した功績は大きい。

根本莞爾から教えを受けた田代善太郎 (1872-1947) は東京高等師範学校に進み、牧野富太郎の教えを受け、ますます植物に興味を覚えた。卒業後、母校福島師範学校教諭兼訓導となったが、翌